

都心狭小個人住宅の内包化された庭による コミュニティ形成に関する研究

MAMM DESIGN 一級建築士事務所 ○間田真矢
日大理工海洋建築 小林直明

1. はじめに

近所付き合いの希薄化など都心部における地域の住民同士の関係が脆弱化しており、その中でいかにコミュニティを形成するかが課題となっている。

コミュニティを形成する主体も従来からある自治会、町内会だけでなく、住民が気軽に訪れることができるカフェなど、個人を主体とするものなど多様化している。今回は、個人住宅においてのコミュニティ空間提供ということで住宅のプライバシーとコミュニティの両立についての建築計画についても提示する。

2. 研究方法・目的

実際に筆者が設計した都心住宅地に建つ狭小個人住宅「ミンナノイエ」では、建物中央に高木の植わった内部化された庭（図1）をコミュニティ形成のきっかけとして設けた。一例として2010年12月19日、23日から26日までの5日間、中庭にて開催したアート展覧会で延べ240名の来訪者があった（表1）。当初の設計内容と来訪者へのヒヤリングで確認し、新たなコミュニティ形成を促進する建築計画および設計手法を示すことを目的とする。

3. 設計内容とヒヤリング内容

「ミンナノイエ」の内部化された庭がコミュニティ形成のきっかけと成り得るためには、個人住宅の一部である庭への「入りやすさ」、入った後の「居心地の良さ」が必須であると考えた。「入りやすさ」「居心地の良さ」とは、建築内外の境界および内部において物理的、心理的なものを建築によってコントロールすることである。ミンナノイエでは、次に示す建築計画の要素を実施設計に当てはめた。

・アプローチである外部テラスから内部の庭まで(途中にあるキッチン・カウンターも含めて)グレー系のレンガで統一して仕上げるこ

で、内外の境界を強く感じさせずに庭に迎え入れることができるようにした（写真2）。

・外部テラス側の窓を間口いっぱいとするこ
とで、前項の仕上げの連続の効果を高める。また南に向けて開けたスリット窓は、視線を敷地境界をも越えた先まで通すことで、閉塞感を解消できるようにした。

・大型のトップライトから自然光をふんだんに取り入れている。白い壁面による反射の効果も含めて、曇天では室内の方が明るいと訪問者を感じさせるほどの明るさと開放感をつくり出せるようにした（写真1）。

・南側にある地階部分の窓と北側上部のハイサイド窓をつなぐ空気の流れをつくり出すことで、心地よい風が流れる環境をつくり出せるようにした（図2）。

・庭の中心には常緑のシマトネリコが植えられ、葉っぱの緑や木漏れ日のゆらぎによる癒し効果が居心地の良さををつくり出せるようにした。

・庭をコミュニティ形成の場として活用するための居住部分のプライバシーを確保については、スキップフロアとし住居プライバシー空間とコミュニティ空間である庭の部分で視線の高さを半階分ずらすことで、プライバシーに配慮した計画とした。

次にヒヤリングにおける空間の感想は、

「公園のようなジャングルジムのような街のような中庭空間」「アットホームな空間」「中心にある木とそれが作り出す影」「にぎやかだ

表1 来訪者の推移 2010年12月19日、23日から26日

日時別来訪者数	12/19	12/23	12/24	12/25	12/26	合計
17:00-17:30	14	11	10	10	12	57
17:45-18:15	8	8	7	12	10	45
18:30-19:00	7	9	7	12	11	46
19:15-19:45	8	9	8	8	10	43
20:00-20:30	12	10	8	9	10	49
合計	49	47	40	51	53	240

Study on Community Formation by Enclosed Gardens
in Narrow City Individual House

Maya MADA and Naoaki KOBAYASHI

けど落ちつく」「空間の取り方がとても刺激的」「不思議な空間を体験」などがあつた。これは、設計に盛り込んだ植栽配置、開口部位置等の自然を利用した建築空間効果と建築材料に配慮した結果に結び付いたと考える。

4. まとめ

個人住宅におけるコミュニティの形成には内包化された庭の設置による効果が挙げられると考える。その効果をより高めるためには以下の5つのコミュニティスペースにおける建築計画および設計手法を挙げる。

- ① 建築材料による配慮：外部テラスから同じ素材で室内の庭まで連続する床仕上げ。
- ② 外部空間との連続性：間口いっぱいの窓(北側)と天井高いっぱいのスリット窓(南側)による視覚的連続性。
- ③ 室内環境の配慮：トップライトからの自然採光による明るく開放的な空間。重力換気を促すルートをつくり、心地よい風の流れる空間。
- ④ 自然との連携：緑化(高木)による癒し効果。緑化気化熱による温度コントロール。
- ⑤ 目線レベルのコントロール：コミュニティ空間と住居プライバシー空間に目線レベル差を設置。

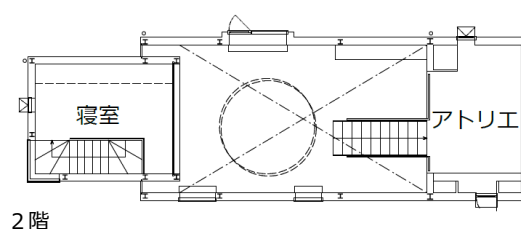
5つの建築計画および設計手法については、過去に開催された中庭での展覧会来訪者のヒヤリングにおいても確認できた。



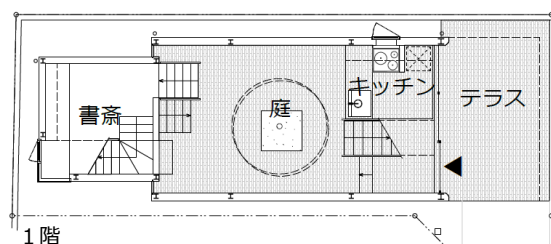
写真1 トップライトから取り入れる自然光



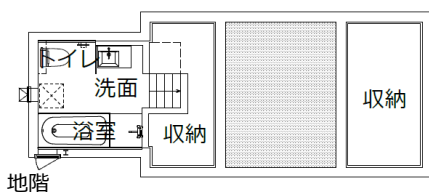
写真2 外部テラスから連続するレンガの床



2階



1階



地階

図1 平面図 内部化された庭を中心としたプラン

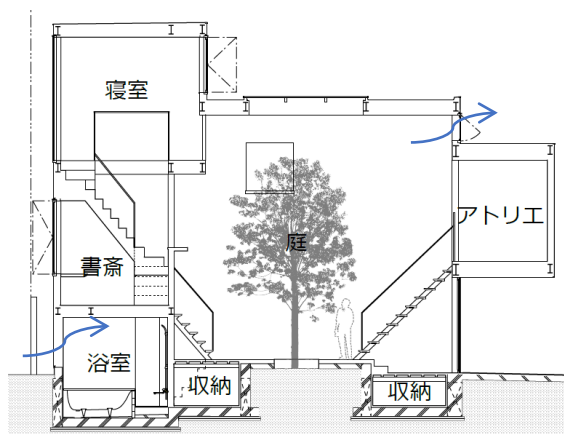


図2 断面図 自然の風の流れをつくり出す窓配置